

# 日野用水堰

日野用水堰は所在地の地名から「平の堰」・「大神の堰」とも呼ばれる、コンクリート製の美しい堰です。1962年(昭和37年)に今日の農業用水堰として完成しました。多摩川と浅川から引かれた農業用水路が市内を網の目のように流れ大変水に恵まれていたことから、日野はかつて「多摩の米蔵」と呼ばれていたほど稲作が盛んでした。

堰完成当初はプールタイプ魚道の一つである扇型魚道<sup>\*1</sup>が設置されましたが、魚道の構造の問題と堰の下流側と河床の落差が大きかったことが理由で魚の遡上を妨げていたため、ハーフコーン型という新しいタイプの魚道<sup>\*2</sup>に変更・改善しました。

\*1 扇形魚道…傾斜水路(斜路)式魚道の下流側の入り口を扇形に開いた形式で、入り口が広いと魚が入りやすいが、広い流れが拡散して水の勢いが減るので、魚にとっては水の流れを感知しにくいというデメリットもある。

\*2 ハーフコーン型魚道…多摩川で開発され「大丸用水堰」に最初に設置された魚道です。プール間の隔壁が半円錐型をしていて、側面に沿った水脈が緩やかな流れを作り、降下する稚魚には優しい流れを、遡上する魚には流下断面が三角形なので、流速も色々に変化し適切な経路を選べます。さらにプールが浅く、らせん状に流れるので土砂が堆積しにくいという特徴がある。



左岸から見た日野用水

